

②農村計画学会 2013 年度秋期シンポジウム（第 2 報）

大会実行委員会・学術交流委員会

日 時：2013 年 11 月 30 日（土）13：00～17：20

会 場：鹿児島大学農学部共通棟 101 講義室

テーマ：「過度の少子高齢人口減少地域はどう生きてゆくのか？」

趣 旨：「食料・農業・農村白書」によると、農業集落としての機能を失った集落、特に過疎地域においては、人口減少・高齢化によって、農地・山林等農村資源の維持管理や、農道や畦畔（けいはん）の草刈り等農業生産活動の補完、冠婚葬祭等生活の相互扶助といったコミュニティの機能が低下し、その維持が困難になることが懸念されている。特に小規模・高齢化集落では、住民が生活で一番困る・不安なこととして、生活に必要な基礎的サービスに関することを多くあげ、高齢者世帯は「近くに病院がない」、「買い物が不便」、「サル、イノシシ等が田畑を荒らす」、30～64 歳の世帯では、「近くに働き口がない」、30～40 歳の世帯では「子どもの学校が遠い」こと等を悩みとしている。なお「運転できる人がいなくなる」という割合も高く、ここでも高齢化による影響がうかがえる。

我が国の農業集落においては、人口減少・高齢化により集落機能が低下しているなかで、地域において相応の所得が得られることが求められており、農業・農村の 6 次産業化等の新しい対策が必要になっている。今回のシンポジウムでは、最初に鹿児島在住の外国人から見た「鹿児島の農山村に住む人々の暮らし」の観点で特別講演をして頂き、次いで「過度の少子高齢人口減少地域はどう生きてゆくのか？」というテーマで、鹿児島県内 2 集落の地区リーダーに体験談を紹介して頂くとともに、まちづくりコンサルタントに県外の「地域活性化への取り組み」を解説して頂く。

プログラム：

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| 1. 特別講演「鹿児島の農山村に住む人々の暮らしを考える」 | 13：00～13：40 |
| 鹿児島国際大学経済学部 准教授 ジェフリー・アイリッシュ氏 | |
| 質疑応答 | 13：40～13：50 |
| 2. シンポジウム「過度の少子高齢人口減少地域はどう生きてゆくのか？」 | |
| 2-1. 趣旨説明 大会実行委員長 友清貴和氏（鹿児島大学名誉教授） | 14：00～14：10 |
| 2-2. 鹿児島県内の事例紹介と体験談 | |
| 「今でも開拓魂は生きている—私たちの宝 つらさげ—」 | 14：10～14：40 |
| 垂水市大野地区公民館 館長 田之上光男氏 | |
| 「相互に支え合う共生・協働のまちづくり」 | 14：45～15：15 |
| 日置市高山地区公民館 支援員 住吉伸一氏 | |
| 2-3. 鹿児島県外各地の地域活性化への取り組み | |
| 「事例を通して過疎地域のまちづくりを考える」 | 15：20～16：10 |
| よかネット所長 山田龍雄氏 | |
| 3. 総合討議 フロアとパネリストの意見交換 | 16：30～17：10 |
| 4. 総括 農村計画学会会長 山路永司氏（東京大学教授） | 17：10～17：20 |